

乾田直播栽培における被覆肥料を用いた全量基肥施肥体系

福島県農業試験場農芸化学部・平成9～10年度成績概要

1 部門名 水稲－水稲－施肥法 01－01－13000000

2 要 旨

乾田直播栽培(品種:「ひとめぼれ」)省力的、効率的な施肥技術体系の確立のため、被覆肥料(LP100)を用いて全量基肥施肥体系を検討した。

(1) 登熟歩合、千粒重は慣行並であったが、着粒数が多いことから、収量は慣行比106～110%となり、60kg/a水準の収量を確保し、1等米格付けであった。

(2) 施肥窒素の利用率は、LP100が慣行より高いため、慣行施肥量の20%減肥が可能であった。

(3) LP100の葉色は、入水後1ヶ月では慣行(基肥－入水時施肥－穂肥の分施体系)より淡かったが、最高分けつ期、幼穂形成期では濃く推移した。

(4) 最高分けつ期の茎数は、慣行より少ないが、有効茎歩合が高まった。

(5) 成熟期の形質では、稈長は慣行並になり、倒伏の発生も少なかった。また、㎡当たり、1穂当たりの着粒数は慣行より多くなった。

以上のことから、乾田直播栽培において、LP100の利用率が高いことから、慣行施肥量の20%減肥した全量基肥体系が可能である。また、この体系で1等米格付60kg/a水準の収量が得られることを実証した。